

# Apereo Foundation を通じたオープンソースコミュニティへの貢献

梶田 将司<sup>1),2)</sup>

1) 京都大学情報環境機構 IT 企画室

2) 京都大学学術情報メディアセンター

kajita.shoji.5z@kyoto-u.ac.jp

## Contributions to Open Source Community through Apereo Foundation

Shoji Kajita<sup>1),2)</sup>

1) Institute for Information Management and Communication, Kyoto University

2) Academic Center for Computing and Media Studies, Kyoto University

### 概要

Apereo Foundation は、高等教育機関における教育・研究・業務においてオープンソースソフトウェアの利活用を促進する NPO である。本稿では、Apereo Foundation について紹介するとともに、Contribution License Agreement に基づいたコントリビューションをスキームを解説する。

## 1 Apereo Foundation とは

高等教育機関におけるオープンソースソフトウェアの組織的活用は、世界的に 2000 年代前半から活発になり、Shibboleth や CAS (Central Authentication Service) 等の Single Sign On, Moodle や Sakai 等の Learning Management System (LMS) では当たり前のように利用されている。Apereo Foundation は、その前身の Jasig Foundation および Sakai Foundation が 2012 年に合併してできた NPO で、2019 年 9 月現在、世界の 67 大学<sup>\*1</sup>・企業・団体等が加盟し、日本の Ja Sakai Community を含む 6 つの地域コミュニティが活動を行っている。ソフトウェアとしては、Sakai, uPortal, CAS を含む 11 のプロジェクトおよび 6 つのインキュベーションプロジェクトが立ち上がっている。

Apereo Foundation の特長として、オープンソースプロジェクトを新たに立ち上げるためのインキュベーションプロセスを有し、コミュニティを育成しながら健全に発展するための支援が受けられるようになっている。また、オープンソースソフトウェアを利用するユーザの権利を守るために、Contributor License Agreement に基づいた Contribution が行われる法的枠組みを提供しており、Apereo Foundation からリ

リースされるソフトウェアの健全性を担保している。

## 2 Contributor License Agreement (CLA)

Apereo Foundation が会員大学から提出された Contribution の知的財産権を明確にし、Apereo Foundation が Outbound License<sup>\*2</sup> により再配布・再利用できるようにするものである。Inbound License とも言われる CLA は Apache Foundation の流儀を踏襲したもので、その前文で明記されているように、Contributor の権利を守るだけでなく、Apereo Foundation と Contribution を利用するユーザを守るためのものである。Contributor が所属する組織の知財担当が提出する Corporate CLA と実際に Contribution を行う個人が提出する Individual CLA の提出が必要である。

## 3 大学としてのメリット

大学としてオープンソースコミュニティに貢献 (Contribution) するメリットとしては以下の 3 点が挙げられる:

- 独自開発したツールや修正パッチを積極的に Contribute することにより、他大学での利活用を推進し、コミュニティの発展を促進することがで

<sup>\*1</sup> 日本からは京都大学、名古屋大学、法政大学が加盟。

<sup>\*2</sup> Apache 2 License または Educational Community License.

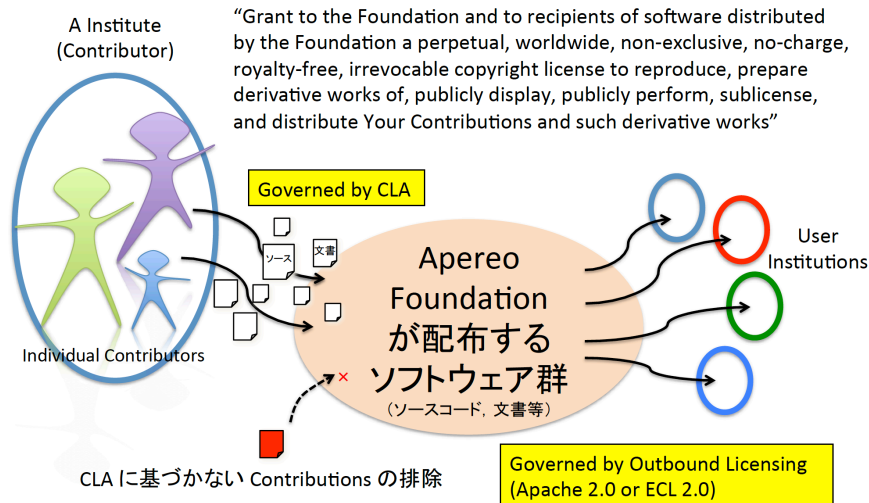


図1 Contributionの安全な利活用を促進するためのCLA.

**世界標準技術の採用**  
**分かりやすく使いやすい**  
 教育・研究活動で世界の主要大学との協調・競争に対応するためには、他大学との情報交換や比較を行いやすい情報環境が必要になる。そのためには、世界標準のシステム・技術・データ形式を用いる必要がある。どの大学でも利用される基本的なシステムは、すでに広くオープンソースシステム\*として提供されている。システム的设计・開発にかかる時間や費用を抑えつつ、わかりやすく使いやすいシステムやサービスを提供するために、オープンソースシステムを活用して、本学や部局の特色に合わせたカスタマイズを行い、各構成員が各自にあった情報環境を享受できる事を目指す。

図2 京都大学 ICT 基本戦略からの抜粋.

きる。

- その結果として、大学が保守しなくてもコミュニティで機能改善や不具合修正等が行われるようになり、Contributeしなかった場合と比べて開発・保守コストの圧縮を図ることができる。
- 大学において更なる開発を行う場合も対応可能な業者の選択が広がる。

京都大学では、ICT基本戦略(2013年7月25日京都大学IT戦略委員会発行)[2]においてオープンソースソフトウェアの利活用を明確に掲げており、Aperero Foundationに大学として加盟することでオープンソースソフトウェアを活用した情報環境整備を推進することができる(図2参照)。

#### 4 まとめにかえて

現在、AXIESオープンソースソフトウェア(OSS)部会では、OSS部会のSakaiサブグループとして位置づけられてきたJa Sakai Communityを発展的に解消し、Aperero FoundationとAXIESの連携を強化するために、Aperero Foundationとの間でMemorandum

of Understanding (MoU)の締結に向けた議論を行っている。

筆者は、2001年のJasig Conferenceへの参加以来、前身のJasig FoundationおよびSakai Foundationを経ながら様々なプロジェクトに参画してきた。最近では、Aperero Foundation Boardを6年間務め、そのグローバルな発展とレジリエントな活動を肌で感じてきた。今後、クラウド化が進み、ソフトウェアがますます重要になる中で、世界的なコミュニティの中でオープンソースソフトウェアの利活用を進めるためにも、よい形でMoUが結ばれることを願っている。

#### 参考文献

- [1] Aperero Foundation, “Contributor License Agreement”, <https://www.apereo.org/licensing/agreements> (2019年9月20日アクセス)
- [2] 京都大学 ICT 基本戦略, <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/foundation/jseibi/kihonsenryaku.html> (2019年9月20日アクセス)